

PCWS(Philippine Center for Water and Sanitation – The ITN Foundation,Inc)訪問調査記録

[訪問日時]

2018年10月29日(月) 9:30 – 14:00

[場所]

PCWS 本部(1 Higinio R. Capistrano Street, Ibayo-Tipas, Taguig City)

[先方]

Lyn N.Capistrano (Executive Director)、 Mitchell V.Doren (Project Officer) 他数名

[当方]

川西真由美、田中直、橋本裕光、堀尾孝子、三木夏苗

[内容]

○設立経緯

1990年より、オランダの International Institute of Infrastructure, Hydraulics and Environmental Engineering (IHE)による研修プログラムが始まり、世界で計30の ITN(International Training Network)が設立された。そのプログラムは1998年に終了したが、フィリピンの ITN のメンバーが集り、NGOとして、Philippine Center for Water and Sanitation – The ITN Foundation(PCWS)を設立した。フィリピンの他にも、ケニア、ジンバブエ、バングラデシュなど、5つのネットワークが残っている。

○活動と組織

コミュニティの住民や地方政府に直接働きかけつつ、低コストでシンプルな技術を用いて、トイレ排水等のバイオガスダイジェスターセプティックタンク、雨水利用などの水供給と衛生にかかわるプログラムを、技術支援、コンサルテーション、研修等の形で促進している。これまでに、計68の州/市で活動した実績がある。2018年度の活動は、研修、バイオガス、雨水利用の3件。バイオガスや雨水利用のタンクには、フェロセメント(金網で補強されたセメント系の複合材料)を用いている。

現在、コアスタッフは10名。外部資金は得ず、研修、技術支援、コンサルティング等にかかわる謝金～手数料によって、会を運営している。クライアントは、中央政府、UNICEF、NGOなどである。

○排水処理施設見学

事務所のすぐ隣に、雨水利用、公衆便所、メタン発酵、排水処理の複合施設があり、見学した。公衆便所は交通の多い道路沿いにあり、隣に雨水タンクがあって、貯留して雨水をトイレのフラッシングと手洗い用に使っている。トイレの排水は、メタン発酵槽に流入する。発生したメタンガスは調理に利用(1日45分程度の継続燃焼可)しているという。メタン発酵槽には、生ゴミも投入している。メタン発酵槽からの流出水は、沈殿槽を経て、二連の嫌気性処理槽(gravel 充填、上向流)で処理され、その後、砂ろ過槽、二連の植物を植えたプランター様の容器、砂ろ過槽と流れて、処理水槽に流入した後、放流される。処理水槽では、処理水質のモニタリング用に小さな魚を飼っていた。処理水は、透明性が高く、臭気も感じなかった。

○Ibayo-Tipas 地区役場訪問

PCWS 本部に隣接した、Ibayo-Tipas 地区(Barangay)の事務所を訪問し、地区長の Erwin C.Mendiola 氏と面会した。同地区は、22,000 人を擁し、行政サービスが行き届いているためか、他の州からの移民が多い(約 30%)。生活排水に関しては、トイレ排水はセプティックタンクで処理、その他の生活雑排水は、未処理で排出されている状態。後者は排水溝で雨水と混じりあう、合併式のシステムとなっている。APEX のコミュニティ排水処理システムの紹介をすると、興味を示し、協りに前向きな姿勢であった。

(感想)

- ・団体として、誠実で良心的な取り組みを続けていることを感じ、自らメタン発酵槽や雨水タンク的设计をするなど、一定の技術と経験をもっていると見られた。より詳しくは現場的調査が必要となる。(田中)
- ・フィリピンでは排水処理はまだほとんど行われていないようで(詳しくは調査が必要)、水質汚濁防止ならびに衛生環境向上の観点から、適正な排水処理技術のニーズは膨大にあると思われる。協力して排水処理を進めていくことは検討に値すると思われた。(田中)



PCWS 事務所での打ち合わせ



排水処理設備見学



公衆トイレに併設された雨水タンク(上)と排水処理設備(右)



Ibayo-Tipas 地区役場訪問